

長崎の林業

小曾根星堂書



1 県立諫早農業高等学校環境創造科の林業体験（林業就業促進支援事業）

目次

●林政だより	東京オリンピック・パラリンピック 選手村ビレッジプラザへの県産材供給..... 2～3
●特集記事	五島の魅力を発信する立役者 永治克行さん..... 4～5
●林業普及だより	林業現場技術者の連携強化 ～ながさき伐木チャンピオンシップ（NLC）の開催を目指して～..... 6
●地方だより・五島	株式会社 西林（対馬市） 林野庁長官賞受賞..... 7
●地方だより・対馬	第28回「土木の日イベント」に森林・林業ブースを出展！..... 8
●林業団体情報	木質バイオマス利用推進シンポジウムが対馬で開催！... 9 令和元年度 高校生等の林業就業促進支援事業 林業の仕事でもいいかな ～Part2～..... 10
●センターだより	原木シイタケ栽培での害菌の発生..... 11
●紹介コーナー	Sumiyakickass（スマヤキカス）..... 12



2020
No.772

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

東京オリンピック・パラリンピック 選手村ビレッジプラザへの県産材供給



協力いただいた社員の皆様

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会では、国産木材を使用して選手村ビレッジプラザを建築し、大会で使われた木材をレガシーとして各地で活用するプロジェクト「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」を立ち上げました。長崎県もこれに賛同し、県産材を提供しました。今回はその事業を受注した高島建設工業（株）の高島正太郎常務にお話を伺いました。



選手村ビレッジプラザ内観イメージ /©Tokyo

選手村ビレッジプラザの概要

選手村ビレッジプラザは、メディアをとおして多くの人の目にふれる選手村の代表的な施設です。また、大会期間中の選手の生活を支える施設であり、チーム歓迎式典、花屋・雑貨店等の店舗、カフェ、メディアセンター等が配置され、認証を受けたオリンピック・パラリンピックファミリーや、メディア関係者、居住者の関係者が訪れます。

今大会では、選手村地区内の東側に配置し、木材の再利用のしやすさを考慮した木造の仮設建築物です。

提供木材の概要

樹種：ヒノキ
構造材 約 3.2m³（柱、梁等）
造作材 約 10.8m³（欄間、床、間柱等）
計 約 14.0m³
プレカット加工・塗装まで行い、提供

選手村ビレッジプラザ全体で約 2,000m³の木材を使用
全国 63 の自治体が協力



木材提供に対する感謝状（県庁ロビーに展示）

一生に一度の仕事

この事業に取り組んでみようと思った決め手は、日本で開催されるオリンピック・パラリンピックに関する仕事は、一生に一度携われるかどうかという仕事であるからということです。さらに自分がやっている木材の仕事で携わることができれば光栄だと思いました。自分たちが加工した長崎県産の木が、世界の人々の目に触れて、その良さを体感してもらえるとという機会は、他では得難い経験だと思っています。



構造材は全数検査

ネットワークを活かして木材調達

提供木材はすべて長崎県産木材で、JAS材です。県内にはJAS目視等級区分の認定工場が1箇所、機械等級区分についてはありませんが、これまで培ったネットワークを活用し、関係各社の協力のもとに、木材を調達することが出来ました。

初めてのオリンピック・パラリンピック

通常の業務と異なり、オリンピック・パラリンピックの仕事は長崎県産材証明書や木材の検査記録表など、様々な書類の提出が必要であったり、納入方法に細かな指定があったりと慣れない部分について苦労しました。

加工についても特殊なものもありましたが、金物工法を始めて13年の経験値・ノウハウを活かし、長崎県代表の木材として自信を持って提供できるものを施工できたと思います。

8月1日に行った提供木材の出発イベントでは、施工に携わっていただいた関係各

社の方々も出席いただき、木材を見送る際はこれまでの苦労を思い、感慨無量でした。

改めて気づいた長崎県産材の魅力

普段使用する木材は宮崎県や熊本県など他県の木材が多いのですが、今回選手村ビレッジプラザへ長崎県産材を提供するにあたり、長崎県産材が良い素材であることを再確認しました。50～60年生の熟成した良いヒノキは、目が詰まり、綺麗な色味をしております。これから伐期を迎えた良質なヒノキがたくさん出てくると思うので、存分に活用する必要があると思います。



提供木材の一部

木材の再利用について

提供した木材は、長崎に帰ってきて、レガシーとして活用するというのですが、解体すれば様々な素材として加工・再利用が容易にできます。例えば、ベンチやパーゴラなどを作って、県庁緑地スペース（おのうえの丘）や新たに建設される新幹線駅など、多くの県民の方々の目に触れる場所に設置すると良いと思います。

取材を終えて

一緒に仕事を進める中で、高島常務が口癖のように仰っていたのは「楽しく仕事をしよう」でした。国を挙げての一大プロジェクトに参加するという事はプレッシャーでしたが、大きな喜びでもありました。

大会終了後、帰ってきた木材の再利用という仕事は残っていますが、楽しく、良い仕事を心がけたいと思います。

(林政課 森林活用班)



【特集記事】

五島の魅力を発信する立役者

なが や かつゆき

永治克行さん

永治さんは御年 71 歳です。ご多忙の中ご自宅をお訪ねして地域づくりにご尽力された活動内容や森林・山村多面的機能発揮対策事業に取り組むこととなった経緯などについてインタビューさせていただきました。

(写真は NPO 法人カメラ五島の皆さん) 右から 2 番目 : 永治氏

五島との出会い

氏は岐阜県中津川市のご出身です。九州とは縁もゆかりもないはずの氏がどうして五島で暮らすようになったのでしょうか。この素朴な疑問を氏にぶつけてみました。早稲田大学在学中に、五島出身の先輩との出会いが契機になったようです。先輩から五島で牧畜を一緒にやってみないかと勧められたことが氏の独創進取の精神に火をつけ五島に行くことを決定づけたようです。青春時代の出会いは、人の一生に大きな影響を与えるようです。

五島の魅力を発信する

その後、昭和 59 年 (1984) 1 月に福江市観光協会事務局長に就任しました。課せられたテーマは、「五島の魅力をどのように発信して観光客を誘致できるか」ということ

でした。氏は五島の魅力を椿、教会及び海(海産物)にあると考え三本柱にしました。特に椿に関しては、東の大島、西の五島と言われるまでに産業化できないかとの思い入れが強かったそうです。

五島椿まつりの開催は氏の発案によるものです。毎年 2 月に開催されるこのイベントは、観光客の足が遠のく季節に五島の魅力発信に大いに貢献しています。開催回数も平成 31 年 (2019) で 25 回を数えるまでになりました。令和 2 年 (2020) 2 月には、国際ツバキ会議・全国椿サミットが当地で開催されます。

「タヤけマラソン」の開催も氏の発案によるものです。当初、タヤけマラソンを提案したところ、関係者からマラソンは冬に実施するものではないかとの意見も出されたそうです。タヤけマラソンは、日本で最後

に沈む夕日を背に、夏の西海国立公園・五島列島・福江島を走るユニークな大会です。開催実績も33回を誇る一大イベントに成長しました。このレースは、参加するサラリーマンの都合を考慮して毎年、土曜日の夕方に実施するのが特色です。

さらに五島は離島にあってキリスト教徒が多く、信仰の拠点として教会が多いことも全国的にも特異な歴史と言えます。この特異な歴史を観光協会が島外に発信してきたことも世界遺産に登録される流れを作った一つのきっかけになったのではないのでしょうか。

森林・山村多面的機能発揮対策との出会い

五島の椿資源を何とかして産業化したいと考えておられた氏は、荒廃地に椿の苗を植える仕事を推進するため、平成22年(2010)に「NPO 法人カメラリア五島」を設立しました。

森林・山村多面的機能発揮対策事業(以下、多面的事業と略す。)が始まる平成25年当時は、自身が経営する新聞社の記者として五島の各地取材しておられましたが、多面的事業の説明会取材したことが、この事業に取組む契機となったようです。平成25年(2013)から多面的事業に取組み、今年で7年目を迎えます。事業内容も多彩で椿林の整備を目的とした森林資源利用タイプを始め里山林保全、侵入竹除去・竹林整備などを毎年実施しています。チェーンソーや刈払い機の購入にあたり、国から購入費用の2分の1の支援を受けられるのはNPO法人にとって心強いようです。



国の支援を受けて作られた炭焼き小屋

椿林の整備を実施して思うこと

椿林を整備するために、成長段階に応じて下刈り、ツル伐り、断幹などを実施してきたそうですが、断幹を実施すると翌年から断幹前よりも多くの枝葉が発生してしまい、栄養分が枝葉の成長に回され、結実までの時間を延ばしてしまうデメリットもあるそうで、随分と悩ましい思いを口にされていました。成長に従って陰樹から陽樹へと特性を変化させる椿の森林資源としての適正な管理、結実促進、収穫の平準化と作業の簡易化などについて、公的試験研究機関に蓄積されている多くの知見が、現場にフィールドバックされ、実際の生産活動に反映されるようなシステムの構築を強く望んでおられました。

取材を終えて

取材の最後に「皆が反対したことが、うまくいく」との言葉は、示唆に富んだ発言です。一層のご活躍を祈念します。



取材を受けている永治さん

(NPO 法人地域循環研究所)

林業現場技術者の連携強化 ～ながさき伐木チャンピオンシップ(NLC)の開催を目指して～



長崎県の現場技術者のキーマン達（阿蘇山（根子岳）を背にして）

林業現場技術者の交流に向けて

長崎県には、348名の林業現場技術者がいます。皆さんすばらしい技術を持っていますが、各人が働く職場（事業体）間で技術交流することはほとんどありません。

「もったいない！」と思いませんか？各人が事業体間で交流ができれば、長崎県全体の技術レベルが上がるはず、安全対策も素材生産性もさらなるステップアップが望めるはずです。

あその山モン伐木チャンピオンシップの視察を通して

チェーンソー作業の安全技術向上に向けて、2014年から青森県で日本伐木チャンピオンシップが開催され、その上位入賞者はヨーロッパで行われる世界大会へ出場しています。この大会は、①伐木、②ソーチェーン着脱、③丸太合せ輪切り、④設置丸太輪切り、⑤枝払いの5つの競技で技術を競い合い、現在、全国の様々な地域で同様の大会が開催されています。今回、現場技術者の方々に声をかけ、阿蘇で開催された大会に視察に行きました。

視察の目的はリーダーとなり得る現場技術者の交流と長崎県大会の開催に向けてです。

視察には県内各地から10人の技術者が参加し、普段行っている作業や技術について意見交換を行うとともに、伐木チャンピオンシップに参加している他県選手の技術力の高さを目の当たりにしてきました。

視察に参加したメンバーは、他の事業体や阿蘇の技術者から多くの刺激を受けたようでした。

今後の展望

今後も、事業体の垣根を越えた交流ができないかと考えています。まずは今回視察に参加したメンバーを核とした各現場における技術交流を皮切りにしたいと考えています。

また、2020年の「ながさき伐木チャンピオンシップ」の開催を目指して、現場技術者等による実行委員を組織するとともに、将来的には世界大会を目指せる技術者を育てるため練習会等も行う予定です。

これらの活動を通して、長崎県全体の技術力を上げるとともに、林業現場技術者は「カッコいい」ということが広く認知されることを目指します。

（林政課 普及指導班）

林業普及だより

農林水産祭参加 全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式
株式会社 西林（対馬市） 林野庁長官賞受賞

式典の概要

公益社団法人大日本山林会が主催する第58回農林水産祭参加「全国林業経営推奨行事賞状伝達贈呈式」が同法人名誉総裁である秋篠宮皇嗣殿下のご臨席のもと、令和元年11月8日に東京・港区の三会堂ビル石垣記念ホールで開催されました。

この行事は、昭和37年から農林水産祭の参加行事として、全国の都道府県知事から推薦された優良林業経営体を同法人が組織する学識経験者からなる審査委員会が審査し、森林の適切な管理、林業の技術・経営の改善に努め、森林の多面的機能の発揮及び林業の発展に寄与している経営体を毎年表彰するものです。

今年は、農林水産大臣賞に8つの個人・団体、林野庁長官賞に16の個人・団体、大日本山林会会長賞に4名が表彰されました。

このうち西林は、林野庁長官賞を受賞されました。

秋篠宮皇嗣殿下のお言葉

伝達式にご臨席された秋篠宮皇嗣殿下から「大日本山林会は林業の振興を目的に明治15年に創設され、その山林会が主催する全国林業経営推奨行事伝達式はその山林会の最大の行事であり、昭和37年の第1回以来、本年で第58回目を数え、受賞者は延べ2,217名に上っていると聞いています。林業は森林の維持を通じて国土保全や水源かん養だけでなく国民の生活や経済にとっても欠かせない要素です。そして、その森林は生物多様性の実現や地球温暖化対策などの観点から重要性が一段と高まっています。今日、日本の森林は循環利用の時期を迎えており、木材を活用することが重要な課題となっています。推奨行事を通じて林業の推進が図られることを希望します。」とお言葉を賜りました。



受賞者の写真（右：西山松雄代表取締役）

株式会社西林の取り組み

対馬市で林業を営む株式会社西林は、徹底した機械化と分業化のもと、木を伐り、集め、運ぶという一連の作業を効率的に行い、木材の生産を拡大しました。

5年前と比較して、年間の森林整備面積は約2倍、木材生産量は約5倍に増加するなど、県内トップクラスの“稼げる林業”を実現しています。

その優れた経営が高く評価され、林野庁長官賞を受賞しました。

今後、ますますのご活躍が期待されます。



株式会社西林 現場技術者の皆さん

（林政課 普及指導班）

第28回「土木の日イベント」に森林・林業ブースを出展！



森林・林業ブース・体験活動

11月17日（日）、新上五島町石油備蓄記念会館において「土木の日イベント」が開催されました。このイベントは建設業協会 上五島支部青年部が主催し、建設業のPRや公共事業への理解を深めようと毎年開催されています。五島振興局林務課新上五島町駐在も森林・林業のPRを目的に、森林・林業ブースを設置し体験活動として押し葉アート作成体験を行いました。

また森林・林業ブースでは、地元のごとう椿苗木生産グループと新上五島町椿木工技術振興会もご協力いただき、つばき苗木や木工品の販売、ホットペン体験を行っていただきました。

押し葉アート作成体験は、A4型の紙に葉っぱをのりで貼り付け、絵を描き、ラミネート加工を施しました。ホットペン体験は、小さめの木の板にホットペンを使いながら思い思いの絵を描きました。幼児や小学生、保護者を交えて約150名の方に楽しんでもらいました。

最近では小学生だけでなく大人も葉や木の板等の自然にある物に触れる機会が少なくなっているのではないかと思います。押し葉アート作成体験やホットペン体験のような自然のものに触れていく機会を増や

しながら、少しでも森林・林業に対する理解や山への興味を持っていただけるように活動を続けていきます。みなさんもこのような体験ができる機会があれば是非参加されてみてください。



ホットペン体験



押し葉アート作成体験

（五島振興局林務課）

木質バイオマス利用推進シンポジウムが対馬で開催！



ラウパツハ・スミヤ・ヨーク氏による基調講演

シンポジウムの開催

令和元年11月17日（日）、対馬グランドホテルにて、「エネルギーシフトでつかむ地域の自立のチャンス～木質バイオマス熱利用からはじめるエネシフ～」が開催されました。

このシンポジウムの目的は、対馬の豊富な森林資源を活かした木質バイオマスエネルギー利用拡大と森林整備促進、地域振興を目指すために策定した「対馬市木質バイオマスエネルギー導入計画」について地域の方に知ってもらい、持続可能な地域づくりについて考えてもらうことです。

シンポジウムには、島の内外から100名以上が参加され、木質バイオマスの利用に対する関心の高さが伺えました。

再生可能な地域エネルギーによる地方創生

基調講演にて、「地域エネルギーによる地方創生～ドイツの事例を踏まえて対馬の可能性を考える～」というテーマで、ラウパツハ・スミヤ・ヨーク氏（立命館大学経営学部教授）の講話が行なわれました。

ドイツでは地方自治体が主体となって電力、ガス、熱などのエネルギー供給から上

下水道、公共交通などの公共サービスを総合提供する「シュタットベルケ」が定着しており、地域経済の活性化に貢献していると紹介されました。

日本ではエネルギー代金（電気、ガス、ガソリン）、水道代の収支が赤字の自治体がほとんどであり、資金が地域外に流出して経済が疲弊しています。そのため、化石燃料から地域資源である木質バイオマスにエネルギーシフトをすることで、資金を地域で循環させることができ、経済の活性化に繋がると述べられました。

対馬の場合、化石燃料の使用により年間約40億円が島外に流出していること、島内の約9割が森林のため、木質バイオマスの供給ポテンシャルが高いことから、エネルギーシフトを推進することで、地域経済の活性化が特に見込まれるという講演でした。

このシンポジウムを通じて、対馬の森林資源を活かした木質バイオマスエネルギーの導入で、森林整備の促進のみならず、地域振興に貢献できることがわかりました。対馬振興局林業課ではこれからも関係各所と協力して、対馬の林業を盛りたてていきたいと考えています。

（対馬振興局林業課）

- 林業団体情報 -

令和元年度 高校生等の林業就業促進支援事業 林業の仕事でもいいかな ～ Part2 ～

事故も無く無事に高校生等の林業就業促進支援事業は終了しました。指導してくれた作業員の方たちの中に、諫早農業高校環境創造科の先輩も数人いて後輩に対して親切丁寧に指導をしてもらえました。

立木のチェーンソー伐倒以外は、完全に機械化された現場やいきいきと指導する若い作業員さんと接したり、体験したりする中で、生徒からは「就職するなら林業の仕事もいいかな。」という感想が聞けました。

自然の中でストレスを感じることなく仕事ができる素晴らしさが生徒に伝わった感じがしました。



長崎南部森林組合 作業員の皆様

インタビュー



環境創造科 2年
まつやま きさき
松山 輝咲さん
出身：諫早市本野
趣味：料理

林業現場の仕事はもったきつというイメージがありました。今日実際の作業現場に来てみて随分と機械化されていてビックリしました。学校の授業より現場が楽しいです。将来の仕事は森林組合や林業関係でも良いかなと思っています。親も理解してくれています。インタビュー中に、彼女は優秀ですよと先生から言葉がありましたが、本人は公務員は希望していませんとキッパリ。



環境創造科 2年
たにもと まお
谷本 満櫻さん
出身：諫早市
趣味：ラグビー

学級委員長の谷本さん、大変でしょうと尋ねると「みんな仲が良いのでそうでもないです。勉強より体育が好きでラグビー部に所属しています。林業現場は機械化が進み感心しました。」将来は？と向けると横から先生が「俳優希望だろう。」本人は苦笑いしながら、公務員希望、警察官希望ですと答えてもらいました。明るくて笑顔が素敵なナイスガイでした。

皆伐現場を見学



皆伐現場の見学の様子

最後に近くの樹齢60年生の約1haの皆伐現場を見ました。

諫早農業高校環境創造科の卒業生で森林組合に勤める植松さんから、この現場はチェーンソー伐採から伊万里の木材市場まで1週間程度で処理します。ここに立っている木は大きいもので3玉取れて、約1m³あります。市場価格がm³当たり13,000円程度、経費が6,000円程度だと収支についても詳しく説明しました。また、収益を確保するためにはきちっと作業計画と作業道の計画、熟練オペレーターによる作業機械の効率化が欠かせないと話されていました。

(Part1は12月号に掲載しています。)

(長崎県林業研究グループ連絡協議会)

原木シイタケ栽培での害菌の発生

はじめに

最近、地球温暖化による気温上昇が農業に与える影響が顕在化しています。

長崎県でもこの100年間で年平均気温が1.63℃上昇しています。今後はこのような温暖化により、雨の降り方が激しくなる一方で降らない日も増え、雨の降り方が極端化したり、35℃以上の猛暑日が増える等の予想がされています。

このような温暖化が原木シイタケ栽培へ与える影響として、次のようなことが予想されます。

- ①夏場の高温環境がシイタケ菌糸にダメージを与える高温障害
- ②これまでみられなかった病原菌や害虫類の発生が助長される病害虫問題
- ③暖冬化の影響や春期の急激な温度上昇による発生不良

近年増えつつある害菌の発生

これらの問題の中で、近年、特に注意すべき害菌であるオオボタнтаケ (*Hypocrea peltata*: ヒポクレア・ペルタータ) の発生が対馬の原木しいたけホダ場で確認されています。



オオボタнтаケ (*Hypocrea peltata*)

オオボタнтаケは、ホダ木(種駒)内に伸長しているシイタケ菌糸を殺して、自分の栄養にしてしまう菌寄生性の菌です。

表面は滑らかで淡褐色～褐色、成熟したものでは径1～5cmで厚さ1cm程の盾形のきのこ(子座)をつくります。

菌糸は高温条件下(25～30℃)でよく生育し、主に7月～10月にかけて通風不良な多湿環境あるいは生材状のホダ木にオオボタнтаケの子座が発生します。オオボタнтаケに感染したホダ木では、シイタケ菌が壊滅的な被害をうけます。

当センターで試験したところ、発生初期から胞子を飛散させるようになるまで7～10日ほどで成長しました。



オオボタнтаケの断面

オオボタнтаケが発生してしまうと壊滅的な被害となることから、胞子の飛散を防ぐために子座が成熟する前に感染ホダ木ごと隔離処分を続けるしかありません。そのため、ホダ場の見回りをこまめにする必要があります。

また、夏場に人工ホダ場上面に寒冷紗をかけて、気温の上昇を防ぐことや通風を良くし、多湿にならないホダ場作りを心がけて、予防することが大切です。

(農林技術開発センター)

紹介コーナー Sumiyackass スミヤキッカス



Sumiyackass（スミヤキッカス）は、長与町の BORDERLESS LOUNGE 内にある、木炭とアウトドア雑貨を販売するお店です。

「Kick ass」とはスラング（略語、俗語）で「楽しい、最高、かっこいい」といった意味合いで使われています。つまり最高の炭焼きを cool に楽しんでしまおうというのが Sumiyackass です。

こちらで販売されている木炭は長崎県の大村湾に面する東彼杵町の遠目地区で作られており、天然林の檜（アカカシ、シラカシ）を材料にすべて職人による手作業で行われています。この木炭は現在長崎の店舗以外に群馬や神奈川、栃木など様々な場所でも取り扱われており、東彼杵のふるさと納税の返礼品にもなっています。

近々、BORDERLESS LOUNGE の隣の建物に移転予定でさらに盛り上がる予定です。炭以外にも様々なアウトドアグッズや服飾雑貨も取り扱われていますので、休日に訪れてみてはいかがでしょうか。

Sumiyackass（スミヤキッカス）

住所：長崎県西彼杵町長与町岡郷2244
BORDERLESS LOUNGE 内

電話：080-9066-2758

営業時間：10時～18時

定休日：火・水

●公式HP

<https://sumiyackass.com/>

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和元年 12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	17,000	多い	普通	普通
	16~18	小曲り	15,000	多い	普通	普通
	20~22	直	16,400	多い	普通	普通
	20~22	小曲り	14,900	多い	普通	普通

【スギ】

令和元年 12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,300	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで